

福岡空港構想・施設計画段階P I 評価委員会 委員長談話

平成22年10月25日

名前は変わりましたが8年間本委員会の委員長を務めてまいり、今日で一つの区切りとなりますので、これまでのP Iについて、感想を申し上げたいと思います。

当初、本委員会の中立性と公正性についての議論をしたことを非常に鮮明に覚えております。本当に、皆様のご協力により、本委員会の任務に対して、社会的に信任していただいたということで、委員長として改めて御礼を申し上げたいと思います。このような大事なプロジェクトの委員長としての職責を全うできたかなと安堵しております。

今回は、具体的な施設の配置などを検討する構想・施設計画段階のP Iであったことから専門的・技術的で難しい内容でありましたが、8割を超える方から、「わかった」「概ねわかった」という非常に高い評価を頂いております。これも、これまで8年間で蓄積されたノウハウの賜物であり、特に、自由記述でご意見を多く頂いたことは、情報が良く伝わったからだと思います。また、意見を述べればきちんと対応してもらえるということが、市民・県民の皆様はこの8年間をかけて伝わったからだとも思います。そのような意味で、このP Iは、困難なこともありましたが、一方通行ではない良好なコミュニケーションの賜物であるとも思っております。

今後は、本段階を終了してから、環境アセスメントへ着手されると思います。あるいは、ターミナルやアクセスなどの問題が多数待ち受けていると思います。このような中で対話型コミュニケーションを図りながら進めていくことが、避けては通れない当然のこととなり、P Iという名前ではないかもしれませんが、P Iの精神、考え方は当たり前ものになると思います。

このような点から、この8年間にわたる色々な経験、ノウハウ、思いなどをぜひ様々なところに承継していただけたらと思います。このことを最後に強くお願いして感想を終わらせていただきます。